

神はあなたを喜んでおられるだろうか

2013年6月14日 アシェル・イントレーター

神は私たちを愛して下さるだけでなく、私たちを好いて下さっています。主は私たちを好いて下さっていることを理解し、主の目に私たちがかなっていることを知り、主が私たちと共におられることを楽しんでくださることは、主が私たちを愛して下さっている事を信じるよりも、より信仰が必要です。私たちは「神は愛だから、主は私を愛して下さっているにちがいない。だけど、それは主が私を喜んで下さっている、あるいは楽しんで下さっている、ということの意味しない。」と考えます。

父なる神は公に二度、イエシュアを愛されており、「心にかなう者」と宣言されました。一度目はイエシュアが洗礼を受けたときで、もう一度は、変貌の山での出来事でした。

マタイ 3:17

「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

マタイ 17:5

「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

最初の例は、イエシュアが奇跡や教えを説かれる前の「公生涯での活動」の最も始めに起こりました。二度目はイエシュアが栄光、力、そして権威に包まれる、主の活動の頂点において起こりました。これら二つの出来事は、私たちが主の足跡をたどるにあたり、私たちにとっての見本となるものです。

神は全世界を愛されています(ヨハネ 3:16)。しかし、主は全世界について「喜んで」おられていません。すべての人に、神に喜ばれる可能性があります、その個人が主に向き合う時にだけ、主に喜ばれるようになるのです。

神の小さな子どもたちとして、主は私たちを喜ばれ、また成熟したパートナーや同労者としても、主は私たちを喜ばれるのです。例えば、私は自分の小さな孫娘や孫娘に深い喜びを覚えます。私はまた、30年以上も共に主に仕える妻を喜びます。喜びの感覚は似ていますが、異なった質や深さの喜びなのです。

イエシュアは洗礼を受けられた後の「通常の」身体状況において神はイエシュアを喜ばれました。主はまた「栄光を受けた」状況に御父は喜ばれました。それは私たちに対しても同じ事が言えます。神は、家族、友人、そして楽しみという普通の時において交流を楽しまれる事ができます。主はまた聖霊の油注ぎ、炎、そして力が伴う集中した「ミニストリー」の時にも私たちとの交流を楽しまれる事ができます。私たちは両方の「事柄の状況」において主を楽しむことができます。

シリアの避難民に対する活動

ジェームズ・アミール

およそ1千万人のシリア人が内戦のために困窮しています。恐らくシリア国内に6百万人、そして他国へ逃亡した避難民は4百万人いると思われます。シリア国内外にいるパレスチナ人を含むアラブクリスチャンたちはこれらの家族に人道支援活動、教育、そして福音活動を行っています。いくつかの問題は大規模な組織にのみ解決可能です。しかし、彼らに神の御国をもたらすために私たちができることを行っているのです—死からの命です。

ヨルダンのみにおいてもおよそ50万人の避難民がおり、マフラクに、主に難民キャンプに15万人がいます。しかしまた、街の中におよそ4万人がおり、ある者はテント、ある者は借家に、そして各家に15~20人がいるのです！マフラクにある私たちの教会はこれらの難民たちの食料、マットレス、カーペット、扇風機その他の生活必需品を提供するのに取り組んでいます。

私たちは家族たちを訪問し、彼らの痛ましい話を聞き、彼らと愛を分かち合い、可能ならば彼らのために祈ります。神はすばらしい事をなさっています。私たちはこれから60日間、この活動のための献金を受け付けています。こちらを[クリック](#)して下さい。(カード決済のページに飛びます。英語)

トルコにとっての岐路

マイケル・ケレム

エルドアン首相は、イスタンブールのタクシム広場での抗議活動を厳しく取り締まりました。タクシム広場は現代のトルコ共和国始まって以来、民主主義と表現の自由のシンボルでした。

トルコ共和国は、オスマン帝国が滅び、第一次世界大戦後の1923年に「トルコ人の父」として現代に知られているムスタファ・ケマルまたはアタチュルクによって建国しました。トルコはそれ以来、人口の99%がイスラム教徒であるにもかかわらず世俗的な共和国です。アタチュルクはヨーロッパの法律を導入し、世俗的な憲法を施行し、国家を西側諸国へと向けさせたかった彼の望みから、トルコのアルファベットをアラビア文字からラテン文字へ変更しました。彼は現代のヨーロッパの状況に十分に合わせるために、休日を金曜日から日曜日へとも変更させました。

トルコにおいて、公的また個人の生活における宗教の役割に対し、建国以来緊張感が続いていましたが、最近になって再びそれが手に負えなくなりつつあります。2002年に就任以来、レジェップ・タイイップ・エルドアン首相はトルコでのパワーバランスの変動を監視してきました。しかし、建国から約80年間、軍隊が世俗的な国家の保護者的な役割を果たしてきましたが、エルドアン首相は効率的に軍隊が保持していた法曹界、政治的主導権を取り除いてきました。それは、権力を持つ多くの将軍ら退かせ、エルドアン率いる公正発展党を支持する人々に入れ替えてきました。そして、個人と

報道の自由の浸食が進みました。最近の外交政策によって、トルコはよりいっそうイスラム過激派と協調路線を取るようになってきました。

それはまた、500 年間のユダヤ人との友好関係を終わらせた事を意味します。オスマン帝国は 1492 年にスペインの異端審問から逃れたユダヤ人を難民として受け入れた最初の国でした。(この関係は過去 5 年間で悪化し、そして 2010 年のトルコのイスラム活動家 9 名がイスラエル国防軍によって殺されたマルマラ船団事件によって公に終了しました。)

ゲジ公園にある樹を切り倒す事に対する平和的な抗議活動として始まった事が、すべての階層からなる若い革新的なトルコ人と警察当局との暴力的な対立へと発展してしまいました。三人が殺され、千人以上が負傷し、さらに千人が拘束されました。トルコの地元のユダヤ人やクリスチャン共同体が守られますように、祈りましょう。